

# きつと大丈夫

## 明日へ踏み出す物語

聴覚障害のある佐藤千優さん(24)と秀祐さん(21)に、母の美穂さんが口酸っぱく教えたことがある。

「聞こえたふりをしては駄目。』もつ一度言ったださ〜』とお願ひしなれ〜」障害があつて、人と違ふことが2人を悩ませることもあつた。小学校の高学年になると、千優さんは人工内耳と補聴器を見られたくないからと髪形を工夫した。

秀祐さんは中学生になつて荒れた。イライラして友達に手を出すこともあつたそう。そこから抜け出せたのが、スポーツに打ち込むことだつた。秀祐さんは「本当はボクシングがしたかった」と笑う。

運動能力の高さを見だし、陸上競技の道を勧めたのは、通つていた岡山響学(岡山市中区土田)の先

### ⑥ 走り高跳び・佐藤秀祐さん

# 子どもたちの目標に

生たち。一般の生徒と一緒に走る大会では、先生

走り高跳びに挑戦した

のこの時期。中学2年

高等部を卒業後、平林ピック。岡山から大応

が交渉してピストルの光で大会に出て、練習が十分ではないという千優さんや煙が少しでも良く見えるよう1コースにしてくれたこともあつたそう。大会にも、響学校から初出場し1位78を記録しほしい」

昨年11月の東京デフリ



佐藤秀祐さん

金属に入社。会社のバックアップは絶大で、競技が続けられるように陸上競技部をつくり、ソフトボール部の球場の端にアンツーカーを敷いて練習環境を整備してくれ

秀祐さんはメダル候補に挙げられながらも5位に終わった。悔しさを抑え、スタンドに頭を下

「いろいろな先生と出会い、かわいがってもらった」と美穂さん。「仕事ばかりで秀祐は千優が育てたようなもの。私は何にもしてません」と話

「頑張る姿を子どもたちに見てほしい。目標に

新たな目標に向け練習を積む

「頑張る姿を子どもたちに見てほしい。目標に

競技に関して口出すこ

(斎藤章一朗)